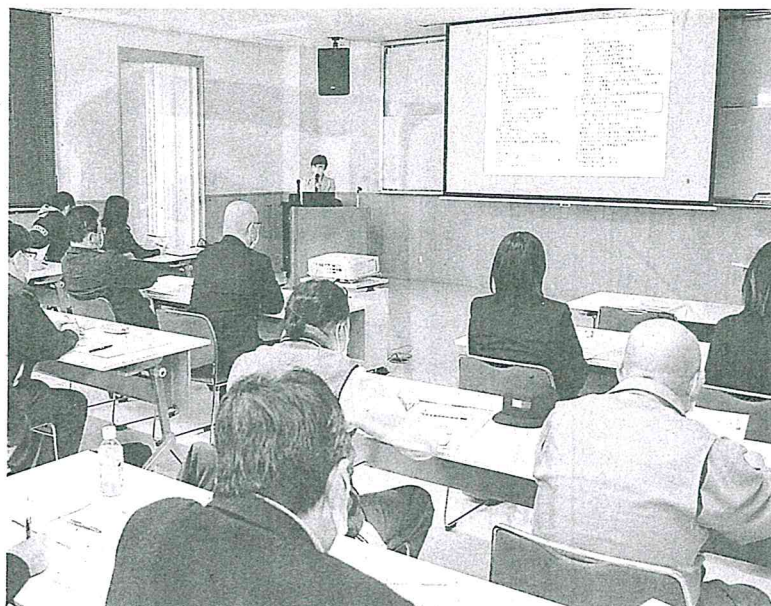


# 健康と仕事 両立策学ぶ

## 気仙沼で労務管理研修会



適切な労務管理のポイントを学んだ研修会

職場のメンタルヘルス対策や、がんなどの治療と仕事の両立について学ぶ労務管理研修会（公益社団法人宮城労働基準協会気仙沼支部主催）が9日、気仙沼市港町の市水産研修センター

であった。

宮城産業保健総合支援センターで、メンタルヘルス対策や両立支援促進員を務める社会保険労務士の富樫敦子さん（57）が講師となり、市内企業の労務担当者

ら約50人が聴講した。

富樫さんは、がんは今も治癒しないと思われがちで「患者はすぐ離職しようとし、職場も受け入れてしまおう」と指摘。柔軟な勤務で回復を促せば「貴重な人材を失わずに済む」と話し、医師と連携した就業継続の模索が望ましいと訴えた。

精神の不調で長期休職する人が増えているデータも示し、風通しの良い職場環境などが不調の防止につながるかと助言。「『よく寝られる？』など、部下への積極的傾聴も早期の発見、対処に大切だ」と述べた。

出席した気仙沼信用金庫人事課の及川有里さん（34）は「メンタルヘルス対策は職場の支援が重要だと再認識した。異変に気付いたら、声をかけて意思疎通を図りたい」と話した。